

## 名古屋大学博物館第6回特別展記録 失われた文化財—アフガニスタン バーミヤン展—

Records of 6th NUM Special Exhibition  
Lost Heritage – Bamian in Afghanistan –

新美 倫子 (NIIMI Michiko)<sup>1)</sup>

1) 名古屋大学博物館  
The Nagoya University Museum, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan

会 場：名古屋大学博物館  
会 期：平成 15 年 3 月 25 日～7 月 31 日

### ごあいさつ

名古屋大学のアフガニスタン学術調査は約 40 年前にスタートしました。東京オリンピックのあった1964年に文学部の柏瀬清一郎助教授(美術史)を団長とし、安田瑛胤氏・藤井知昭氏・前田耕作氏(文学部OB)や清水哲太氏(山岳部OB)ら総勢 11 名の調査隊によるバーミヤン仏教遺跡調査がその最初です。工学部の小寺武久助教授(建築史)を団長とする1969年の第2次調査隊に参加した宮治 昭文学研究科教授(当時大学院生)は、その後何度もアフガニスタンを訪れ、バーミヤン仏教美術の調査・研究を継続しています。

2 回のバーミヤン調査の間の1968年には、第5回特別展で紹介した農学部の芦田 淳教授のグループによるイシュカシム地域での栄養適応調査が実施されました。1964年のバーミヤン調査にも1968年のイシュカシム調査にも、名古屋大学に留学していたアフガニスタン出身のナジブラ・モハバット氏が大きな役割を果たしました。このことは名古屋大学のアフガニスタン研究の上で記憶されるべきことと思います。

本特別展は1964年・1969年の名古屋大学調査隊の研究成果(N洞の発見など)を中心にして、2001年にタリバンによって爆破される前のバーミヤン仏教遺跡の姿を振り返ります。現在、ユネスコによってバーミヤン仏教遺跡の修復・保存計画が進められていますが、それには破壊前に行なわれた名古屋大学隊の詳細な調査結果が不可欠です。



図1 第6回特別展ポスター

なお、会場には特別展示品として「流出文化財保護日本委員会（ユネスコ）保管」のアフガニスタンの浮き彫り、ストゥッコ（塑像）、壁画が展示されています。これらはアフガニスタン仏教美術を特徴づける三要素で、今回の特別展の理解には欠かせないものになっています。

この特別展がアフガニスタンの仏教遺跡・文化財の現状を理解していただく一助になるとともに、名古屋大学関係者を中心にしたアフガニスタン研究と交流の輪がより大きなものになり、さらに若い人達がアフガニスタン研究に参加するきっかけになることを願っています。

特別展を開催するにあたり、流出文化財保護日本委員会・財団法人文化財保護振興財団をはじめ、江村治樹、柿田喜則、小寺武久、清水哲太、中日新聞社、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学研究室、東京藝術大学大学美術館、仲井豊、土屋仁応、日本デジタルコミュニケーションズ株式会社、平山郁夫、藤井知昭、前田耕作、宮治昭、森本隆寛の皆様から様々なご支援をいただきました。記して謝意を表します。

2003年3月

名古屋大学博物館長 足立 守

## 展示と解説

### 1. バーミヤン遺跡って？

#### What is the Bamian Heritage?

#### バーミヤンの洞窟群 —シルクロードの巨大遺跡—

バーミヤン遺跡は、アフガニスタンのヒンズークシ山脈の間にある仏教遺跡です。岩穴に彫られた仏像や彩色された壁画があることから、バーミヤン石窟[せっきつ]群（洞窟群）とも呼ばれています。仏教美術がインドから中央アジアをとって中国へ伝わったころの、シルクロードの重要な仏教遺跡で、とくに55メートルと38メートルという、二体の巨大な大仏があることで知られてきました。



図2 1. バーミヤン遺跡って？コーナー

#### ○いつごろ、だれが造ったのか

製作年代については3世紀から8世紀までのさまざまな説があります。近年の研究では、6～7世紀を中心に造られたとする説が有力になっています。

当時、中央アジアは西突厥[とっけつ]（トゥルキー・シャーヒー）によって支配されていました。その頃にバーミヤンを治めていた王侯貴族の寄進によって洞窟群が造られたと考えられています。しかし、造られた事情について記した史料などはなにも残っておらず、確実なことはわかっていません。

バーミヤン調査の略年譜

年	調査の流れ	同時代の主なできごと
		18世紀半ば…パシュトゥン族のドゥラーニーが、インドやイランを追いやってドゥラーニー朝を起こし、アフガニスタン民族国家が成立。
1824年	イギリス人W. ムーアクラフトとG.トレベックが、ヨーロッパ人として初めてバーミヤンを調査	19世紀…ロシアの南下政策とインド亜大陸を植民地としたイギリス勢力との間に挟まれた状態となる。
1832 ・ 1835年	イギリス人A. バーンズ、C. マッソンによる調査が行われる。	1839～1842年…第一次アフガン戦争 1878～1881年…第二次アフガン戦争
1895 ・ 1910年	イギリス人コリンズやハイデンらによって摩崖や大仏の写真が公開される。	1914～1918年…第一次世界大戦
1922年	フランスがこの年以降30年間、アフガニスタン国内の考古学的調査を独占的に行う権利を獲得する。	1919年…アマヌラー・ハーンが第三次アフガン戦争でイギリス軍を敗り、アフガニスタン独立。
1923 ・ 1924 ・ 1930年	J. アッカンを隊長とするフランス隊によってバーミヤンの調査が行われる。 反乱のためアマヌラー・ハーン亡命。ナディール・シャー（国王）即位。	反乱のためアマヌラー・ハーン亡命。ナディール・シャー（国王）即位。
		1929年…世界恐慌はじまる
1932年	尾高鮮之助が日本人で初めてバーミヤンを訪れる。	1933年…ナディール・シャー暗殺。息子のザヒル・シャー（国王）即位。
1936年	ハーバード大学が調査隊を派遣し、B.ローランドが研究を始める。	1939～1945年…第二次世界大戦 1940年…ザヒル・シャー、第二次世界大戦に中立を宣言。
1939年	吉川逸治（東京大学名誉教授・元名古屋大学教授）がフランスのアッカソ一行とともにバーミヤンを訪れる。	カブール大学（医学部・法学部）創立。 国連に加盟。
1952年	フランスの独占権が切れ、この年以降、フランス、イタリア、日本、アメリカ、ドイツ、イギリスなどの調査隊が競って調査を行うようになる。	1953年…ザヒル・シャーのもとで、いとこのムハンマド・ダウドが首相となる。
1959年	この年以降、京都大学調査隊がパキスタンとアフガニスタンの考古学調査を続ける。	
1964年	名古屋大学アフガニスタン学術調査団がバーミヤン現地調査を実施。	1963年…ダウド首相辞任。
1969年	名古屋大学アフガニスタン・バーミヤン調査団がバーミヤン現地調査を実施。当時、大学院生だった宮治氏も参加。	

年	調査の流れ	同時代の主なできごと
1969～ 1977年	ユネスコの援助によって、インドのチームが大仏や石窟、壁画の修復保存作業を行う。	
1970年代	当時アフガニスタン考古局長であったZ.タルジによるバーミヤン調査が行われる。	1973年…ダウド元首相がクーデターを起こす。ザヒル・シャーはイタリアに亡命。アフガニスタン共和国成立。
1974 ・ 1976 ・ 1978年	京都大学調査隊がバーミヤン現地調査を実施。宮治氏も参加。	1978年…民族民主主義者らによる四月革命勃発。ダウド大統領、殺害される。
1975 ・ 1977年	成城大学調査隊がバーミヤンの美術史的調査を実施。	アフガニスタン人の一部がパキスタンで反政府ゲリラを結成。ソ連によるアフガニスタン軍事介入が始まる。
2001年3月	タリバンによってバーミヤン二大仏が破壊される。	2001年10月…アメリカによるアフガニスタンへの空爆開始。 2001年12月…暫定政権樹立。
2002年 9～10月	ユネスコがバーミヤン復興のための調査団を派遣。	2002年6月…カルザイ氏が大統領に就任。

### 岩石標本

#### バーミヤン仏教遺跡とアフガニスタンの地質 (Geological background of Bamian, Afghanistan)

バーミヤン仏教遺跡 (No. 1 地点) はヒンズー・クシ (Hindu Kush) 山脈の南西部に位置し、海拔 2,400 m の高地にあります。2001 年に爆破された巨大な大仏は、地質図で黄色 (記号は N2) の今から 300 万年ほど前の礫岩 [れきがん] や砂岩からできている崖に彫られていました。

この N2 層はアフガニスタン中部を東西に横断しているハリロッド断層という大断層に沿って細長く点々と分布しています。石窟が掘られた大きな崖のあるバーミヤン渓谷は、ハリロッド断層の活動と関係してできたと考えられます。

カブール北のカピサ地方から見つかった特別展示品の釈迦誕生図や焰肩 [えんけん] 仏坐像は結晶片岩という石に彫られたものです。これとよく似た石はカブール付近 (No. 2, 3 地点) に見られ、今から 20 億年? ほど前にできたと考えられています (地質図ではピンク色、記号は PR1)。同種の石はアフガニスタン東部のハッタ付近からパキスタン西部にかけて分布しています。有名なガンダーラの彫像群もこれとよく似た黒い結晶片岩に彫られています。

バーミヤンやフォラディ (バーミヤンの南約 20 km) の石窟壁画によく使われている青色の絵の具は、アフガンブルーという独特の群青 [ぐんじょう] 色をしたラピス・ラズーリ (lapis lazuli: ラテン語で lapis が石、lazuli が青) からできています。このラピス・ラズーリは、ヒンズー・クシ山脈北部のごく限られた場所 (地質図の No. 4 地点) からしか見つかっていません。ラピス・ラズーリは宝飾品として、またアフガニスタンの仏教壁画に欠かせない顔料として古くから採掘されてきました。

## 2. 名古屋大学隊の調査

### Nagoya University's Investigation

#### 名古屋大学隊の主な活動

##### ○N洞の発見

バーミヤンの数多い洞窟の中でも、名古屋大学隊が1964年に発見したN洞（洞窟）は学術的に価値の高い壁画で知られています。これらの壁画は当初はすすけていましたが、1969年に洗い出しをして、はっきり見えるようになりました。

##### ○壁画の詳しい図面を多数作製

これまでなかった壁画の詳細なスケッチ図を次々と作り、公表しました。これによって、壁画の主題や内容を明らかにする図像学的研究が大きく進展しました。また、他の遺跡のものと詳しく比較することも可能になりました。



図3 2. 名古屋大学隊の調査コーナー

##### ○洞窟の実測図面を作製

石窟の構造を明らかにするために、多くの洞窟の平面図・断面図を作りました。この図面によって洞窟の機能や用途を推測したり、アジャンターやキジル、敦煌など、他の遺跡の洞窟と比較することによって、中央アジアの石窟寺院の特徴を明らかにすることができます。

#### 洞窟の名前の付け方

まずフランス隊が主な石窟にAからKまでの名前を付けました。次に名古屋大学隊が、その続きでLからZまでの名前を付けました。その後、京都大学隊が確認できるすべての洞窟に1から750までの通し番号を付けました。

#### 西大仏

高さ55メートルの西大仏の頭のまわりの仏龕〔ぶつがん〕\*には回廊が造られ、歩けるようになっていました。名古屋大学隊は回廊部分の詳しい平面・断面図を作製しました。\*仏像などを安置する箱。ここでは大仏のまわりの洞穴をさす。

#### N洞

名古屋大学隊がN洞を発見しました。「N」は名古屋大学にちなんでつけられ、現在も世界的に使われています。東壁には特に美しい壁画が残っており、この壁画の線図や洞窟の平面・断面図を作製しました。

## E 洞

坐仏(すわった仏像)はほとんど漆喰がはがれ落ちており、漆喰を支えるための木ぐいを差し込んであった孔が見えます。仏龕の天井に描かれた弥勒菩薩像は「麗しの菩薩」と呼ばれています。名古屋大学隊はこの壁画の線図を作製しました。

## 東大仏

高さ38メートルで、西大仏よりも小ぶりです。衣装の文様が西大仏と少し違います。仏龕の天井と東西の壁には壁画が描かれ、これらの線図が作製されました。

バーミヤン遺跡正面図 京都大学学術調査隊 作製

222窟 天井部壁画の線図 宮治 昭作製

### 3. 失われたバーミヤン

#### **Bamian Heritage Lost**

#### バーミヤン遺跡の破壊と修復

バーミヤンの遺跡は2001年、旧タリバン政権によって大規模な破壊を受けました。いま洞窟群の壁画で残っているのは全体の2～3割であるといわれています。

バーミヤンの遺跡が破壊されたのは、宗教的、政治的理由が考えられます。もともとイスラム教は偶像の崇拝を禁じており、このことが偶像である仏教遺跡を破壊する理由につながった可能性もあります。しかし、バーミヤンにもイスラム教は9世紀頃には入っており、宗教的な理由だけで今バーミヤンが破壊されたわけではないでしょう。それより、20年来の内戦で社会・



図4 3. 失われたバーミヤンコーナー

経済の状態が非常に悪くなり、国際的にも孤立して追いつめられたタリバンが、世界の注目を集めようと過激な行動に出たという、政治的な理由があるのではないかと考えられます。

アフガニスタンに平和がもどった今、バーミヤンの失われた文化財をどのように修復していくかが大きな課題となっています。

#### 1970年頃のバーミヤン・2002年のバーミヤン

東大仏はダイナマイトで爆破され、その衝撃で仏龕[ぶつがん]に描かれていた壁画も落ちてしまいました。

東大仏の仏龕の天井部に描かれていた壁画の一部です。現在は落ちてなくなりました。

おなじように西大仏も爆破されました。

坐仏が爆破されて、仏龕 [ぶつがん] の天井壁画もすべて落ちてしまいました。(E洞を下から見上げたところ)

N洞東壁の壁画より「天女」と「菩提樹」が削り取られました。

N洞東壁の壁画より「赤い夜の坐仏群」、「飾られた仏陀」や「比丘」が削り取られました。

XI窟のドーム天井の浮き彫りの一部が削り取られました。

## N洞の発見

N (名古屋大学の頭文字) 洞は、名古屋大学アフガニスタン学術調査隊の隊員前田耕作氏 (和光大学名誉教授) によって、1964年7月25日に発見されました。その壁画は、色彩の鮮やかさと技法の見事さの点でパーミヤンの壁画中最高の部類に入ることから、発見の喜びはひとしおでした。

## 前田耕作さんの記録から

調査を始めてから数日して、カブールでの心労も抜けていなかったのもあろう、私は突然病に倒れ、ベッドから起き上がることができなくなり、谷を去ってつぎの旅程に向かう仲間を見送り、ひとりパーミヤンに残ることになってしまった。病床で嘔みしめる孤独より、ほの暗いランプの下で過す夜の寂寥のほうかひとしお身にしみた。・・・(略)・・・

すっかり体調がもとへ戻ると、私はアッカ報告書 (『パーミヤンの仏教古址』) を現場で照合し、再確認し、できれば新たな知見をそれに加えるべく、ひとり作業を始めた。・・・(略)・・・ある日、i洞東側の石窟群を調べようとしてアプローチのルートを探しているとき、たまたまひどく破損している一窟に達することができた。後につけられた壁穴によって接続している諸窟を一つ、また一つとくぐりぬける。七窟ほどくぐりぬけたところで最後に行き止まりになっている方形の小窟に入る。

あっと息をのむ。鮮やかな赤色の衣を通肩にまとった小さな坐仏がまず目にとびこんできた。夢中になってノートをとる。この東端の洞は、方形プランのラテルネンデッケの小堂であり、南面に小前室もっていたこと、塑像を壁面に取り付けた跡のない純粋な絵画洞で周壁と天井に絵が残存していること、とりわけ東壁框部分に見える小坐仏群と西壁上部の聖衆が見事に残っており、彩色、描法ともにパーミヤン壁画中ぬきんでていることなどを走り書き的に書きとめた。・・・(略)・・・七月二十五日のことであった。

『アフガニスタンの仏教遺跡パーミヤン』(前田耕作著、2002年、晶文社刊) より

## N洞の実物大模型と壁画

N洞は床の一辺が2.3メートル程の正方形で、高さ1.7メートルの小さい洞窟です。天井はラテルネンデッケ天井\*です。南側に入りがありましたが崖が壊れたため出入りはできません。西壁に開いた孔を使い隣の洞窟から出入りします。

発見当時、東西南北の壁とラテルネンデッケ天井には壁画がありました。これらは彩色や描法でパーミヤン壁画中でも抜きんでていました。とりわけ東壁の壁画は見事なものでした。中央左寄りに大きな「坐仏」とそれを供養する二人の「天女」が見られます。坐仏の向かって右側の天女は目鼻立ちが見事で、朱のアイシャドーと流し目には艶っぽさが感じられます。坐仏頭上には「菩提樹」が描かれていま

す。目を右に転じると、大きくはげ落ちた壁の上部には「比丘」〔びく〕\*\*に囲まれた「飾られた仏陀」があります。比丘は向かって右に二人、左に三人いることが線図によって判ります。天井の梁〔はり〕には「赤い衣の坐仏」群が描かれています。

ここにあるN洞の実物大模型では、2002年秋の現地調査で撮影された壁面の様子を再現しています。貴重な壁画が失われたことがわかります。

\* ラテルネンデッケ天井…四角の枠を順々に組みあげたような形をした天井(三角隅持送り式天井)

\*\* 比丘 (びく) …仏教における男性の出家修行者



図5 N洞の実物大模型

壁画とラテルネンデッケ天井は2002年撮影(破壊後)の写真です。(この面が南側です)

#### 4. 壁画のスケッチ図

##### Tracing of Wall Paintings

##### 手描きの重要性

仏教美術の研究などで壁画を分析する時には、壁画を写真で記録するだけでなく、自分の目と手を使って模写する必要があります。なぜなら、風化や汚れなどにより写真でははっきりしない部分も、人間の目では判別することができる場合もあるからです。

東大仏の仏龕天井部に描かれた壁画(太陽神)について、かつてフランス隊が線図を作りました。しかし、誤りや見落としがあったので、1969年に名古屋大学隊が新たな線図を作りました。主な訂正点は以下の2点です。

1、主神(中央の人物)の背後に「半月」があります



「半月」ではなく「マント」(主神はかつては月神と思われていましたが、新たな線図により、太陽神だとわかりました。)



図6 4. 壁画のスケッチ図コーナー

2、左下の女神の持つ盾は無地と思われていましたが、顔が描かれている



壁画の構成要素（この場合は蓮華 [れんげ] 模様）を図にして、形式を分類することにより、パーミヤンの壁画同士の新旧関係がわかります。

また、他地域のものとは比べることにより、パーミヤン美術の特徴が明らかになります。

壁画を見ながら描いたスケッチ（名古屋大学大学院文学研究科 宮治 昭さんの作品）

パーミヤン調査の時にはこのような風景画なども描かれました。

（名古屋大学大学院文学研究科 江村 治樹さんの作品）

壁画を見ながら描いたスケッチ：壁画の表現方法なども細かく記述されています。

（名古屋大学大学院文学研究科 宮治 昭作製）

N洞を実測して現地で作った平面、断面図

（名古屋大学名誉教授 小寺 武久作製）

## 5. 文化財修復

### Restoration of Heritages

人類の遺産である文化財のなかには、風化や破壊などにより、そのまま放置しておくとう失われてしまうものがあります。

これらの文化財を後世に受け継いでいくために、文化財修復は行われます。修復の目的は、おもに現状をそのまま維持するため、あるいは当初の姿に戻すためです。

忘れられていた工芸技術を復活させ、継承するために、現地の人々にも参加してもらうことが、とても大切です。

### ビデオの説明

上映中のビデオは、東京芸術大学美術研究科 文化財保存学研究室での文化財修復の様子です。修復作業では、素材などの科学的な分析、考古学・歴史学の研究、職人的な技術（ノウハウ）が同時に求められます。

将来、再び修復がおこなわれることを見越して、修復前には詳しい記録が取られ、文化財のどこに手を加えたかが分かるように修復します。使われる素材も、もともとの文化財に影響を与えないものが選ばれます。

### 流出文化財の保護・返還

アフガニスタンはシルクロードの途中にあり、様々な文化や人々が行き交う地として繁栄してきました。その結果、多くの文化が融合し、独特の文化を築き上げてきました。特に初期の仏教美術に関しては、ガンダーラ遺跡とともに文化遺産の宝庫とされています。

しかし、戦乱が続いたため、貴重な文化遺産の多くは破壊されてしまいました。また、戦争の混乱の中で、貴重な文化財を国外に持ち出す者も後を絶ちません。

アフガニスタンの混乱が一段落し、平和への希望が出てきた現在、私たちはこれら海外へ流出した文化財をアフガニスタンに戻し、復興を手伝う必要があります。日本では、「流出文化財保護日本委員会」が、様々な経緯で日本に流入した文化財を保護し、アフガニスタンへの返還事業を進めています。

## 流出文化財コーナー

流出文化財保護日本委員会（ユネスコ）保管

### (1) カピサから出土したレリーフ

誕生図（釈尊〔しゃくそん〕誕生の図）カピサ地方出土 3～4世紀 結晶片岩

摩耶〔まや〕（マーヤー）夫人が右手で沙羅樹〔さらじゅ〕をつかんだ時、釈尊が誕生したエピソードを表す。夫人右脇から生まれる釈尊を受けるのは帝釈天〔たいしゃくてん〕（インドラ）、反対側には梵天〔ぼんてん〕（ブラフマー）がいる。向かって左端にはクシャーン族の者、右端には比丘〔びく〕が表されている。



図7 流出文化財（レリーフ）

焰肩〔えんけん〕坐仏像（両肩より火焰〔かえん〕をあげる仏陀〔ぶつだ〕）カピサ地方出土 3～4世紀 結晶片岩

焰肩は仏陀の神通力をあらわすが、カニシカ王などクシャーン朝の王像にも同様の表現があり、仏教とイラン系の文化との交じり合いを物語る。

### (2) 石窟壁画の断片

バーミヤンのK洞とフォラディ遺跡の洞窟から切り取られた壁画の一部です。

K洞では、1969年に名古屋大学隊がスケッチ図を作ったまさにその部分が切り取られました。

石窟壁画断片 フォラディ 7～8世紀

バーミヤン渓谷の西側にあるフォラディ渓谷にも石窟寺院が開かれており、石窟構造や美しい壁画がいくつか残っていた。残念ながらこのフォラディ石窟の三尊仏や千仏などが描かれた壁画もかなり破壊され、切り取られてしまった。本壁画もその切り取られた一つで、顔立ちが達者な線描で生き生きと表されている。



図8 流出文化財（石窟壁画の断片）

石窟壁画断片 バーミヤンK洞天井西壁  
7～8世紀

円輪構図の千仏図の一つで、顔を斜めに向け、特別の印相（手の組み方）をとる。

光背〔こうはい〕を虹のような多重の帯で表しており、中央アジア美術の仏像表現を知る上で、貴重な作品である。

バーミヤン石窟壁画断片 バーミヤンK洞奥壁仏龕 [ぶつがん] 7～8世紀

地上から10mほどの高い位置にあるK洞は、美しい壁画で全面を飾られていた。天井には弥勒菩薩 [みろくぼさつ] 像と円輪構図の千仏、側壁には涅槃図 [ねはんず] があり、奥壁には大きな仏龕があった。本壁画は破壊され切り取られた奥壁の仏龕天井の千仏図の一体で、衣紋 [えもん] 線が見事な墨線 [ぼくせん] で画かれている。

[ K洞の調査で 宮治 昭さんが描いたスケッチ  
衣服のしわや手の組み方を比べると、スケッチとここにある切り取られた壁画が同一部分だと  
わかります。 ]

(3) 仏像類

仏陀やその弟子などを題材にして、石灰と砂を混ぜたストゥッコや粘土で作られました。

\*ストゥッコは型を用いて作られることが多かったため、パターン化しています。しかし目、鼻、口などは「へら」で仕上げられました。



図9 流出文化財（仏像類）

魔衆頭部 ハッダ出土 4～5世紀 ストゥッコ

釈尊を脅す魔衆の1人として作られたものだろう。釈尊が悟りを開く際、多くの魔衆が攻め立てたという「降魔成道」の場面を構成していたものを思われる。

青年頭部 ハッダ出土 4～5世紀 ストゥッコ

顔の表情が生き生きと写實的に表されている青年頭部。これによりギリシャ・ローマ美術の手法がアフガニスタンで長く生き続けたことが分かる。もとは全身像であった。

仏陀頭部 ハッダ出土 4～5世紀 ストゥッコ

穏やかな表情を見せる仏陀像

ヴァジュラパーニ（執金剛） ハッダ出土 4～5世紀 ストゥッコ

釈尊にいつも付き従ってボディガードの役を果たした守護神。ヴァジュラパーニとは「金剛杵を持つ者」という意味で、ガンダーラ美術には作例が多い。

男性頭部 ハッダ（ジャララバード）周辺出土 粘土 流出文化財保護日本委員会（ユネスコ）保管\*

ローマ美術の肖像彫刻のようなリアルな表情を見せる人物像。頭髪をそっているのでおそらく仏弟子を表したものであろう。

\*流出文化財保護日本委員会(ユネスコ)保管のアフガニスタンの文化財が東京藝術大学以外で公開されるのは、今回が初めてです。

## 体験・学習コーナー

### 1. 修復に挑戦

破片が、土器のどの部分にあたるかを考えながら大まかに分けてみよう。

くっつきそうな破片を選んで合わせてみよう。違っていたら、また別の破片を合わせてみてね。

いよいよ、合った破片どうしをくっつけて(初級)

いよいよ、合った破片どうしを接着剤でくっつけて(上級)

完成！！

初級コース:マジックテープのついた破片を使ってね!

上級コース:セメダインを使って破片をくっつけてみよう



図10 修復に挑戦コーナー

### 2. 壁画に挑戦

体験コーナー

ご自由に絵付けをお楽しみください

#### 壁画に挑戦

素焼きのレリーフ、皿などに「岩絵の具 [いわえのぐ]」などを使って色をつけてみよう!パーミヤンの壁画は、ラピス・ラズーリを始めとする「岩絵の具 [いわえのぐ]」(天然の石を細かく砕いて膠 [にわか] \*と混ぜたもの)で彩色させています。

「岩絵の具」はもともとが鉱物のため、その色はほとんどあせることはありません。現在でも日本画を中心に珍重されています。

\*膠:動物の骨や皮などからとる接着剤(ゼラチン)

#### 色塗りのご注意

- ・絵の具や絵筆などはこのコーナー(青いじゅうたんの部分)から持ち出さないでください
  - ・素焼きのレリーフは、1人一枚です。
  - ・素焼きの皿をご使用になりたい方は、受付までお申し出ください。その他、質問がございましたら、遠慮なく受付までお申し出ください。
- 出来あがった作品はお持ち帰りください

## 文献コーナー

- 朝日新聞社東京本社企画部（編）（1976）『平山郁夫シルクロード展図録』朝日新聞社東京本社企画部  
井上隆史（2003）『アフガニスタン さまよえる国宝』日本放送出版協会  
小林 豊（2002）『えほんはともだち 40 せかいいちうつくしいほくの村』ポプラ社  
菅沼隆二（2002）『バーミヤン大仏最期の雄姿 菅沼隆二写真集』菅沼隆二  
中 淳志（2002）『バーミヤン写真報告 2002』東方出版  
（2003）「バーミヤンは、いま」『大法輪』四月号、5～20  
（2003）「バーミヤン石窟撮影記」『大法輪』四月号、183～123  
前田耕作（2002）『アフガニスタンの仏教遺跡バーミヤン』晶文社  
前田耕作・越前 隆（2002）『写真集バーミヤン遺跡』毎日新聞社  
宮治 昭（1996）『ガンダーラ 仏の不思議』講談社  
（2002）『バーミヤン、遙かなり ～失われた仏教美術の世界～』日本放送出版協会  
山と溪谷社（編）（1973）『山溪フォト・ライブラリー シルクロード〈I〉中国・ソ連・アフガニスタン』山と  
溪谷社

## 文化財修復実演会

- 4月19日・5月17日・7月5日 名古屋大学情報科学研究科博士前期課程 森本隆寛  
「土器の修復実演」  
6月6～8日 東京藝術大学大学院美術研究科助手 柿田喜則  
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程 土屋応仁  
「塑像の修復実演」

## 特別展に関連した講演会

- 第22回 4月26日 文学研究科教授 宮治 昭  
「失われたバーミヤン美術」  
第23回 5月9日 薬師寺副住職 安田暎胤  
「玄奘三蔵の道を辿って」  
和光大学名誉教授 前田耕作  
「アフガニスタンと私」  
第24回 6月30日 トヨタ自動車株式会社副社長 清水哲太  
セントラルスプリング社社長 ナジブラ・モハバット  
「アフガニスタンと名古屋大学」  
第25回 7月11日 元国立民族学博物館副館長 藤井知昭  
「文明の十字路 アフガニスタンの文化」  
第26回 7月24日 東京藝術大学大学院美術研究科教授 長澤市郎  
「美をまもるー文化財保存修復の現場からー」  
東京藝術大学大学院美術研究科助手 建石 徹  
「アフガニスタン文化復興支援活動の一例ー東京芸術大学の活動を中心にー」

特別展会中に催された名古屋大学博物館コンサート (NUMCo)

第7回コンサート 6月30日 ト ゼンショウ (中国琵琶)

十面埋伏／古曲

天山の春／王範地 編曲

シルクロード／喜多郎

第8回コンサート 7月11日 横手多佳子 (チェンバロ)・Weitzer 朝恵 (チェロ)・

恒川妃翠 (ヴァイオリン)

チェンバロとフルートのためのソナタ ニ長調 WQ. 83/C.Ph. E. Bach

トリオソナタ ト短調/G.Ph. Telemann

ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ ト長調BWV1021/J.S. Bach